

# 多発する労働災害の大幅な減少を目指し、

## 鹿沼労働基準監督署管内「カモシカ対応100日運動」がスタート!!

鹿沼労働基準監督署（管轄：鹿沼市）では、平成25年の休業4日以上労働災害件数が昨年対比で5%以上増加しました。特に「転倒」災害が同5割増、「はさまれ・巻き込まれ」災害が同4割増と多発傾向を示し、これに「墜落・転落」災害を含めた災害（以下「3つの事故の型による災害」）で全休業災害の6割を占め、今年に入っても増加傾向が続いております。

そこで、これら「3つの事故の型による災害」を大幅に減少させる必要があることから、5月21日、鹿沼労働基準監督署管内の災害防止団体長会議を開催し、鹿沼労働基準監督署長から、管内11災害防止団体の代表者などに対し、趣旨などを説明した上で協力を要請し、

平成26年6月1日から同年9月8日までの100日間、

### “みんなで考え みんなで実践 会社、団体、地域をあげて広がる 安全職場の輪”

をスローガンとする「カモシカ対応100日運動」と題した運動を一致団結して取り組むこととしました。

なお、「カモシカ運動」とは、鹿沼監督署管内で多発する「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」、「転倒」の3つの労災事故の型について、通常は起きていない“かもしれない”けれど、万に一つでも危険がないかと考え、“もしかししたら”起きるかもしれないこと（カモシカ事例）を、労働者、安全スタッフ、事業主がそれぞれの立場で「何をすべきか」、「何ができるのか」と考え、災害防止活動の具体化を図る（カモシカ対応する）ことで、事業主と労働者が一体となり、団体、地域を挙げて取り組む、これまでになかった災害防止運動のことです。

ちなみに、「危険予知活動」がチームや小集団で話し合っって潜在する危険要因を探るのに対し、「カモシカ運動」のねらいは誰か（他人）まかせではなく、働く労働者一人ひとりが考え、宣言し、実践することにあります。

この100日運動期間中に取り組む「カモシカ対応」によって、危険感受性を飛躍的に高めるとともにリスクアセスメントの導入・定着のきっかけ、そして労働災害の大幅な減少が期待されます。



〔鹿沼監督署で開催された「災害防止団体長会議」の様子〕

〔参考様式〕 カモシカ対応100日運動 実践様式	
【目的】	「はさまれ・巻き込まれ」及び「墜落・転落」の「3つの型」の意識を高め、事業主における自らの作業行動に照らし「危険感受性」「もしかししたらこの場合」などの危険要因に対して、その原因が生じた場合の対応を考えていきましょう！ また、対応については「事業主」「安全スタッフ」及び「労働者」のそれぞれの役割で「何をすべきか」を考え、必ず実行に移し、徹底するようお互い一丸となって取り組み、安全・安心の職場を創りましょう！
【想定される事業（カモシカ事例）】	（例）もしかししたら〇〇かもしれないので〇〇して〇〇（事業（例：転落など））するかもしれない。
【実施される事業（カモシカ事例）】	（例）作業中として、自ら行おうべきこと、事業者、労働者に任せようべきこと（例）
【事業主（事業主）】	（例）安全スタッフ及び労働者として自ら行うべきこと、事業主自ら（労働者）と連携（例）
【労働者（労働者）】	（例）労働者として自ら行うべきこと、事業者（例）に任せようべきこと（例）
【安全スタッフ（安全スタッフ）】	（例）労働者の行動から行うべきこと、自らの作業や労働環境など自ら行うべきこと（例）

上図は、「カモシカ対応100日運動リーフレット」（表紙）及び実践様式例

なお、この「カモシカ対応100日運動」のリーフレットや実践様式は、  
（一社）鹿沼労働基準協会のホームページからダウンロードできます。（HP アドレス <http://www5.ocn.ne.jp/~karouki/>）

※「カモシカ運動・カモシカ事例・カモシカ対応」は、いずれも鹿沼労働基準監督署の造語